

## 病虫害総合管理技術推進対策事業

- 実施期間：令和7年度
- 担当部署：病理昆虫部
- 区分：農産園芸課令達・交付金

### ○研究内容

現地で問題となっている病虫害に対し、化学合成農薬に替わる防除法や薬剤感受性検定による効果的な薬剤選択等について検証することで、環境負荷軽減に寄与する病虫害防除体系の構築を図り、岐阜県が推進している「ぎふ清流GAP」をバックアップしていきます。なお、主な内容は以下のとおりです。

#### ◆カキの果樹カメムシ類対策

近年、カキ栽培において、秋に果樹カメムシ類が多発し、その対策の実施が必要となっています。そこで、栽培後期の10月においても果実品質に影響がない殺虫剤の探索と防除体系について検討します。

#### ◆コナジラミ類の生物的防除を中心としたIPM技術

近年、高品質なエダマメ栽培などにおいて、タバココナジラミの多発が問題となっています。タバココナジラミは複数の薬剤に対する感受性が低く、防除が難しい害虫です。そこで、薬剤に頼らない防除方法確立するため、生物的防除を中心としたIPM技術について検証します。

#### ◆イチゴ萎凋症状の発生原因の解明

近年、イチゴの育苗期や定植初期に原因不明の萎凋症状が発生していることから、その発生原因について検討を行います。



ヒラズハナアザミウマ



タバココナジラミ



イチゴ萎凋症状